

八王子市議会議長

鈴木 玲央 殿

八王子市長 初宿 和夫



「幼少期における発達障害の現状及びその相談支援体制について」に関する
提言について(回答)

令和 5 年 (2023 年) 3 月 28 日付 4 八議議発第 279 号により提言いただいたこのことについて、下記のとおり回答します。

記

1 提言内容

「幼少期における発達障害の現状及びその相談支援体制について」

- (1) 早期発見と早期支援体制の強化
- (2) 発達障害に関する様々な相談を総合的・横断的に対応できる体制整備
- (3) 行政・支援者・関係機関同士の連携強化

2 回答

提言いただいた内容については、幼少期における発達障害児支援のためには有益なものであると考えます。

発達障害児支援は早期に発見し療育を行うことが有効であることから、市では保護者の気づきを促すため、リーフレットを作成し相談窓口を周知するほか、地域で講座を開催するなど、早期発見・早期支援に努めます。

相談窓口については、市内 2 か所の児童発達支援センターの相談対象年齢を未就学児から 18 歳未満までに拡大し、発達の気になるお子さんの総合的な窓口相談体制を強化します。併せて、子どもの成長や発達段階ごとの必要情報を気軽に得られるよう、様々な関連事項を一つにまとめたホームページを整備し情報発信することで支援につなげていきます。

行政・支援者・関係機関同士の連携につきましては、乳幼児期の乳幼児健診を実施する保健福祉センター、乳幼児期の幼児教育・保育を充実するための機関である幼児教育・保育センター及び学齢期の総合的な教育相談を実施する教育センター等関連機関との連携強化を図り、切れ目のない支援体制を構築してまいります。